

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503585		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホームいずみの杜 ひのき		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目7番3号		
自己評価作成日	令和5年4月10日	評価結果市町村受理日	令和5年5月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170503585-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念である「敬う心、尊厳ある暮らし」を念頭に利用者様の今までの人生の中で築き上げてきたものを尊重しつつ安心して笑顔が多くみられるような支援を心掛けています。その為に常日頃から送りノートや記録などを使用し情報を職員全員で共有しながらケアに役立てています。定期的なカンファレンスや家族様とのやり取りの中でできる限り利用者様に合ったケアを実践し、利用者様と家族様の要望があればそちらに応えられるように努めています。何があってもまずは利用者様本位で心に寄り添いながら全て職員が行うのではなく利用者様の残存機能を大事にしたケアをするようにも努めています。季節に合わせた装飾作りを利用者様と一緒にしつつ、行事も設定し楽しんで頂いています。欲しいものがあれば出来る限り一緒に買い物にもお連れしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいずみの杜」は、JR平和駅から徒歩圏内の静かな住宅地に立地しており、近隣にはバス停やコンビニエンスストア、公園もあり生活の利便性が高い事業所である。建物内は明るく開放感のある造りで、ソファや食卓テーブルなど好きな場所で利用者がゆっくり寛げるようになっている。居間には利用者と一緒に制作した季節の装飾や観葉植物があり、家庭的で落ち着いた雰囲気が感じられる。研修や日々のケアの中で利用者一人ひとりの状況に応じた適切な声かけや対応を学び、各利用者がその人らしい尊厳のある暮らしが継続できるように全職員で支援している。排泄支援の面では、本人の尿意や便意の訴えを大切にし、可能な限り時間での声かけを行わないようにしながら排泄の自立に向けて取り組んでいる。食事は、利用者の意向を聞きながら献立を作成したり体調を見ながら食が進む献立にするなど、各利用者の好きな料理をバランスよく提供して食事が楽しめるように工夫している。管理者は日々の業務の中でも職員と話をする機会をつくり、意見や提案を聞き取りながらケアや運営に反映させ、働きやすい職場環境の整備に努めている。利用者の状況を電話やメールで詳細に家族に伝えるとともに、それぞれの利用者の思いに寄り添い、利用者と家族が安心して過ごせるように全職員で温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えていく (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し職員で共有、ケアの礎としている。コロナ禍により外部との接触を自粛していた。5類になったら感染対策はしつとも以前は行っていた町内会の催しや近所の方との交流なども再開していきたい。	いずみの杜目標に「町内の催しに参加し、近所の方にも気軽に来てもらえるようにします」という文言が含まれている。職員が常に意識できるようにユニット内に理念と目標を掲げ、管理者は業務の中でも説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院受診以外はほとんど行っていなかった外出も少しずつではありますが買い物などの機会は作っている。	現在は、散歩や買い物で地域の方と挨拶する程度になっている。近隣の方に野菜の差し入れを受けることもある。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に応じて、地域との交流も再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ目立った参加交流は図れていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今のところ人が集まった会議は開けておらず書面での実施となっている。	前年度は書面会議を年6回開催し、利用者状況や行事などを議事録に記載して家族や町内会、役所に送っている。今後は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に応じて、対面での会議を予定している。	会議を開催する時はテーマを記載した案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見や質問なども会議に活かすよう期待したい。また、書面会議の場合も役立つ情報資料を添付するなどの工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の利用者様が多く入居されている。その為、区的生活保護の担当者とは定期的に連絡を取り合い協力関係を築いている。	区役所に自立支援医療制度の手続きについて相談している。保護課の職員が来訪した時は利用者の状況を報告しながら情報交換している。普段から連絡を取り、何かあれば相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の身体拘束・虐待防止適正化委員会や送りなど職員間での話し合いの場で何が身体拘束なのかも含め、ケアの確認を行い身体拘束を行わないケアへの意識を職員全員で高めている。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備している。会議の中で勉強会や身体拘束適正化委員会を開催しているが、議事録の整備は不十分な面もある。玄関の鍵は夜間のみ施錠し、言葉かけに配慮して閉塞感を与えないように対応している。	勉強会と身体拘束適正化委員会の議事録を分かりやすく整備するよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議、ユニット会議で虐待防止や権利擁護について話し合いの場を設けており、その内容を職員全員が周知することにより防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方がおり情報を共有している。研修なども活用し学ぶ機会を作り利用者様に合わせた支援につなげていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に利用者様とご家族様にはホームを見学して頂きパンフレットや必要書類を用いて説明している。利用者様とご家族には納得とご理解を得て頂くように一つ一つ確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来れないご家族様や後見人を利用している方を含め、電話で都度、今の様子をお伝えしている。利用者様の状態を詳細にお伝えできるように職員全員が日々のケアに努めている。	面会時や電話で利用者の様子を伝えて家族の意見や要望を聞き取っている。意見や要望は口頭で職員に伝えることが多いため、今後は個別に記録したいと考えている。毎月「いずみの杜通信」を家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に都度、意見や提案ができる環境にあり、話し合い、検討が来ている。聞き入れた意見などは運営に反映されるように努めている。	毎月の会議やカンファレンスなどで意見交換している。管理者は普段から職員の意見や提案を聞き取り、話し合いながらより良い方法を検討してケアや運営に反映させている。職員との個別面談も随時行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は可能な限り現場の職員とコミュニケーションをとり、必要があれば面談も行っている。その上で管理者より代表者へ職員個々の努力や実績、勤務状況などを定期的に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足により研修を設ける時間が作れないでいる。今後はZOOMやDVDを利用した内部研修の機会を作っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と交流する機会は作れているが職員はつくれていない。管理者は職員全員が交流、学びの機会を作れるように整備する必要がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に概要説明がある。本人、家族の要望や生活歴等を聞き、その情報は職員全員が把握するように務めている。情報を元に一日でも早く安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学、面談の段階から不安や要望を聞き入れている。ご家族様が納得、安心出来るまで話し合いを行い良好な関係性を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前よりご家族様などを通し利用者様の情報の収集を行なった上でアセスメントを行い必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し見守りを基本としながら待つ姿勢を大事にしている。その上で出来ないことはお手伝いをし出来る事は自身で行っていただく。どの場面でも共に行うという事も大事にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会での来訪時や電話で近況報告は行っている。ご家族様の希望でメールやLINEを使用されるご家族様もあり詳細な連絡が出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策した上であるため多少の制限があるものの面会は可能であり面会希望はすべて対応している。	利用者の高齢化により、知人や友人との交流は少なくなっている。家族や親族が面会に訪れている。職員と一緒に近隣の店に買い物に行くこともある。感染症収束後は、家族とのドライブや外食なども再開したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の時間も大事にした上で、全員で毎日の歌や体操の時間を設けている。季節に合わせた装飾造りやレクリエーションも行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても交流は可能である。今まで同様の関係性を大切にしているため、相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向や希望に関しては利用者様に無理がかからないように可能な限り支援している。困難な場合でも出来る限りの努力はしている。	会話や仕草、表情、以前の状況などから思いや意向を把握している。趣味や嗜好をアセスメントシートに記入し、3か月ごとに更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を確認し、利用者様との普段の関わりから情報の詳細の把握に努めている。ご家族様からも可能な限り情報を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常生活のリズムをできる限り尊重し関わっている。そのために行動や会話などは記録をし申し送りや連絡ノートも利用しながら情報を共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定期的にカンファレンスを開催。開催にあたりケア担当する介護職員から情報収集、ご家族様からの要望も汲み上げ看護師の意見も参考に計画作成担当者が現状に合った介護計画を作成している。	担当職員が記入したアセスメントシートを基に計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。介護記録は、介護計画を意識しながら変化や課題を記録しているとはいえない。	介護計画の見直しに活かせるように、介護記録はサービス内容の番号を入れて変化などを記入するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケアの実践など記録している。申し送りノートや病院受診ノートなども活用し、職員間の情報共有が出来ており介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて利用者様やご家族の要望に応えられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人代表者が地域との繋がりを持っており地域資源を利用しやすい状況であったが地域の自肅体制も強いのか今のところ目立った動きはない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回のかかりつけ医(内科)による往診があり体調管理、服薬調整を行っている。利用者様の心身状況を診て他科受診が必要と判断されれば紹介状も書いて頂いている。	全員が協力医療機関の往診を受けている。専門医の受診は、利用者の状況や受診先に応じて事業所で通院支援を行っている。家族と受診する時は書面で健康状態を伝えている。受診記録は個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて利用者様一人一人の健康状態を確認。現場の職員とも口頭と連絡ノートにて情報を共有し看護に活かしている。必要に応じた病院受診も介護職員と協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は家族と連絡をとり双方でできる事を協力しながら利用者様の入院をサポートしている。医師、看護師、相談員と連携をとり早期に退院出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針、緊急時、終末期、医療行為については説明している。状態が重度化した場合は家族と密に連絡をとり要望を聞き入れかかりつけ医との連携により対応している。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」などに沿って事業所の可能な対応について説明している。利用者の体調変化に応じて主治医の判断の下に家族と方針を話し合い、適切な病院や施設に移れるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を受講している職員としていない職員がいるため、訓練や勉強をする機会を作っていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に的確な避難誘導ができるように、現在は消防署が立ち会っていないが防災コンサルタントの方が立ち合いの中、定期的に防火訓練は行っている。	年2回、防災コンサルタント会社の立ち会いで火災を想定した訓練を実施している。感染症収束後は、消防署と地域住民の協力を得た訓練を予定している。地域との協力体制も再確認する予定である。	感染症収束後は、職員の救命講習の受講を計画的に進めるよう期待したい。地震を想定した訓練を行うと共に、ケア別の対応について全職員で話し合い定期的に確認するよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、利用者様と接している中でその人らしく心地よいものと感じて頂けることを見極めた上で一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけない声掛け、介助に気を付けている。	スピーチロックに関する勉強会を実施し、日々のケアの中でも自尊心を損なわない言葉かけを意識している。申し送りは利用者に聞こえない場所やイヤホンを使用し、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の生活リズムを考慮しながら全ての行動に対し自己決定出来るような声掛けを心掛けている。それ故に普段から意見や思いを伝えやすい雰囲気を作るためのコミュニケーションを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の生活スタイルを優先しその中で職員が行わなければならない業務をいれるようにしている。一緒にいけるIADLは共に行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自発的に行っている部分は基本見守り。状況に応じて自尊心を傷つけないように支援している。自身で行えない方も個人の好みを把握した上で支援している。定期的に訪問理美容も利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人の嗜好を把握し、まんべんなく提供出来るように食事作りをしている。食材の買い出しも利用者様が喜びそうな料理を想像しながら行っている。行事にて普段はなかなか提供できない料理も提供するようにしている。	当日の食材状況と利用者の好みや意向を考慮して献立を考えている。敬老会などの行事で海鮮丼にしたり、誕生日はケーキやラーメンの出前など好みの食事を楽しんでいる。感染症対策のため、現在は食器の後片付けに利用者が参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間は決められてはいるがそれ以外でも記録を通して不足している方は体調などもみながら嗜好も考慮しこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時、就寝時に口腔ケアを行っている。就寝時には義歯を預かり義歯洗浄も行っている。自身で行えない方や磨き残しがあれば職員が介助している。口腔内のトラブルや職員の介助では行き届かない部分があれば訪問歯科診療を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄を記録し排泄パターンを把握している。食事、水分摂取量を確認しつつ尿意、便意を待ち、状況によっては声掛け介助を行っている。	水分・排泄表に個別に排泄状況を記録している。昼夜共に可能な限りトイレを利用している。個別の声かけ誘導などを行う場合もあるが、本人の尿意、便意を待ち可能な限り排泄の自立ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を多く含んだ食材の提供を心掛けている。適度な運動も心掛け、それでも便秘傾向である場合は主治医に相談をし緩下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は体調をみて問題がなければ週2回行っている。基本入浴は午後行うことになっているが気分や希望によっては午前の入浴対応もしている。	1人当たり週2回午後の時間帯を中心に入浴を行っている。状況によりシャワー浴の場合もあるが、2人介助などを行い可能な限り浴槽に入っている。職員との会話や入浴剤なども入浴の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルに合わせて程よい疲労感を作れるように日中はアクティビティを行っている。安心できるような関わり方にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と居宅療養管理指導の契約を結んでおり、担当の薬剤師と連携を取りながら服薬の支援を行っている。薬剤師からの情報などは職員全員で共有できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の訴えや希望を汲み取り、好きなこと、楽しみ事を行えるように支援している。出来ない部分は自尊心を傷つけないように共に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物支援を行っている利用者様もいるが現在、ほとんどの方が病院受診の外出のみとなっている。今後コロナも5類になったところを機に以前のように散歩やドライブなど外出機会を設けていきたい。	普段は、周辺の散歩や近隣のスーパーマーケットへの買い物、プランターの野菜の手入れなどで外気に触れている。車で近くの公園に紅葉見学に出かけたり、外食でハンバーガーなども楽しんでいる。感染症の収束状況に応じて、ドライブや野外での食事などを行いたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則ご家族様の管理であるが希望があり自己管理が出来る利用者様であれば相談をし個人で所持して頂いている。管理ができない方でも希望時、必要時に使用出来るようにご家族様からお金を預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることが可能な方であれば要望に応じて対応している。電話で会話は可能だがかけることが困難な方は取りつなぐところまで支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるような装飾を利用者様と共に作る所から行っている。日々気持ちよく生活して頂くために清潔感にも努めている。天候、体調などに配慮した音、光、温度調整も行っている。	大きな窓に面したりリビングは広々とした空間で、窓際のソファや食卓テーブルなど思い思いの場所でゆったりと過ごすことができる。利用者の写真やこいのぼりのちぎり絵など、手作りの季節の装飾が壁面や天井に施されている。観葉植物などもあり、明るく家庭的な共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の自席は利用者様の相性などを考慮しながら決めている。気の合った利用者様同士でゲームが出来るようなテーブルの配置、テレビをくつろいで観れるようにソファの配置もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来る限り大切な物や馴染みの物を持参して頂き安全面に配慮しながら配置している。欲しいもの、必要な物が出てきた場合、ご家族様に相談しお持ち頂くかこちらでご用意している。利用者様の要望があれば居室のしつらえもおこなっている。	以前から使用していた、筆筒や椅子などの使い慣れた家具やテレビなどを持ち込んでいる利用者もいる。掛け軸やぬいぐるみ、好みの書物や小物などもあり、その人らしい生活が継続できる居室が作られており、利用者は居心地よく過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の個々の生活スタイルを把握し、混乱や転倒などの事故が起きないような物の配置に配慮し安全に生活できるような動線を確認している。手すり、足元灯などの照明の設置などで安全面には工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503585		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホームいずみの杜 かえで		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目7番3号		
自己評価作成日	令和5年4月10日	評価結果市町村受理日	令和5年5月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503585-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念である「敬う心、尊厳ある暮らし」を念頭に利用者様の今までの人生の中で築き上げてきたものを尊重しつつ安心し笑顔が多くみられるような支援を心掛けています。その為に常日頃から送りノートや記録などを使用し情報を職員全員で共有しながらケアに役立てています。定期的なカンファレンスや家族様とのやり取りの中でできる限り利用者様に合ったケアを実践し、利用者様と家族様の要望があればそちらに応えられるように努めています。何があってもまずは利用者様本位で心に寄り添いながら全て職員が行うのではなく利用者様の残存機能を大事にしたケアをするようにも努めています。季節に合わせた装飾作りを利用者様と一緒にしつつ、行事も設定し楽しんで頂いています。欲しいものがあれば出来る限り一緒に買い物にもお連れしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し職員で共有、ケアの礎としている。コロナ禍により外部との接触を自粛していた。5類になったら感染対策はしつつも以前は行っていた町内会の催しや近所の方との交流なども再開していきたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院受診以外はほとんど行っていなかった外出も少しずつではありますが買い物などの機会は作っている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところ目立った参加交流は図れていない。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今のところ人が集まった会議は開けておらず書面での実施となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の利用者様が多く入居されている。その為、区の生活保護の担当者とは定期的に連絡を取り合い協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の身体拘束・虐待防止適正化委員会や送りなど職員間での話し合いの場で何が身体拘束なのも含め、ケアの確認を行い身体拘束を行わないケアへの意識を職員全員で高めている。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議、ユニット会議で虐待防止や権利擁護について話し合いの場を設けており、その内容を職員全員が周知することにより防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方がおり情報を共有している。研修なども活用し学ぶ機会を作り利用者様に合わせた支援につなげていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に利用者様とご家族様にはホームを見学して頂きパンフレットや必要書類を用いて説明している。利用者様とご家族には納得とご理解を得て頂くように一つ一つ確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に出来ないご家族様や後見人を利用している方を含め、電話で都度、今の様子をお伝えしている。利用者様の状態を詳細にお伝えできるように職員全員が日々のケアに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に都度、意見や提案ができる環境にあり、話し合い、検討が出来ている。聞き入れた意見などは運営に反映されるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は可能な限り現場の職員とコミュニケーションをとり、必要があれば面談も行っている。その上で管理者より代表者へ職員個々の努力や実績、勤務状況などを定期的に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足により研修を設ける時間が作れないでいる。今後はZOOMやDVDを利用した内部研修の機会を作っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と交流する機会は作れているが職員はつくれていない。管理者は職員全員が交流、学びの機会を作れるように整備する必要がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に概要説明がある。本人、家族の要望や生活歴等を聞き、その情報は職員全員が把握するように務めている。情報を元に一日でも早く安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学、面談の段階から不安や要望を聞き入れている。ご家族様が納得、安心出来るまで話し合いを行い良好な関係性を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前よりご家族様などを通し利用者様の情報の収集を行なった上でアセスメントを行い必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し見守りを基本としながら待つ姿勢を大事にしている。その上で出来ないことはお手伝いをし出来る事は自身で行っていただく。どの場面でも共に行うという事も大事にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会での来訪時や電話で近況報告は行っている。ご家族様の希望でメールやLINEを使用されるご家族様もあり詳細な連絡が出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策した上であるため多少の制限があるものの面会は可能であり面会希望はすべて対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の時間も大事にした上で、全員で毎日の歌や体操の時間を設けている。季節に合わせた装飾造りやレクリエーションも行っている。洗濯物をたたんだりモップ掛けなどのお手伝いもして下さっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても交流は可能である。今まで同様の関係性を大切にしているため、相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向や希望に関しては利用者様に無理がかからないように可能な限り支援している。困難な場合でも出来る限りの努力はしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を確認し、利用者様との普段の関わりから情報の詳細の把握に努めている。ご家族様からも可能な限り情報を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常生活のリズムをできる限り尊重し関わっている。そのために行動や会話などは記録をし申し送りや連絡ノートも利用し情報を共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定期的にカンファレンスを開催。開催にあたり担当する介護職員から情報収集、ご家族様からの要望も汲み上げ看護師からも意見も参考に計画作成担当者が現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケアの実践など記録している。申し送りノートや病院受診ノートなども活用し、職員間の情報共有が出来ており介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて利用者様やご家族の要望に応えられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人代表者が地域との繋がりを持っており地域資源を利用しやすい状況であったが地域の自粛体制も強いのか今のところ目立った動きはない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回のかかりつけ医(内科)による往診があり体調管理、服薬調整を行っている。利用者様の心身状況を診て他科受診が必要と判断されれば紹介状も書いて頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて利用者様一人一人の健康状態を確認。現場の職員とも口頭と連絡ノートにて情報を共有し看護に活かしている。必要に応じた病院受診も介護職員と協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は家族と連絡をとり双方でできる事を協力しながら利用者様の入院をサポートしている。医師、看護師、相談員と連携をとり早期に退院出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針、緊急時、終末期、医療行為については説明している。状態が重度化した場合は家族と密に連絡をとり要望を聞き入れかかりつけ医との連携により対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を受講している職員としていない職員がいるため、訓練や勉強をする機会を作っていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に的確な避難誘導が出来るように現在は消防署が立ち会っていないが防災コンサルタントの方が立ち合いの中、定期的に防火訓練を行っている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、利用者様と接している中でその人らしく心地よいものと感じて頂けることを見極めた上で一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを傷つけない声掛け、介助に気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の生活リズムを考慮しながら全ての行動に対し自己決定出来るような声掛けを心掛けている。それ故に普段から意見や思いを伝えやすい雰囲気を作るためのコミュニケーションを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の生活スタイルを優先しその中で職員が行わなければならない業務をいれるようにしている。一緒に行えるIADLは共に行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自発的に行えている部分は基本見守り。状況に応じて自尊心を傷つけないように支援している。自身で行えない方も個人の好みを把握した上で支援している。定期的に訪問理美容も利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人の嗜好を把握し、まんべんなく提供出来るように食事作りをしている。食材の買い出しも利用者様が喜びそうな料理を想像しながら行っている。行事にて普段はなかなか提供できない料理も提供するようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間は決められてはいるがそれ以外でも記録を通して不足している方は体調などもみながら嗜好も考慮しこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床時、就寝時に口腔ケアを行っている。就寝時には義歯を預かり義歯洗浄も行っている。自身で行えない方や磨き残しがあれば職員が介助している。口腔内のトラブルや職員の介助では行き届かない部分があれば訪問歯科診療を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄を記録し排泄パターンを把握している。食事、水分摂取量を確認しつつ尿意、便意を待ちつつ、状況によっては声掛け介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を多く含んだ食材の提供を心掛けている。適度な運動も心掛け、それでも便秘傾向である場合は主治医に相談をし緩下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は体調をみて問題がなければ週2回行っている。基本入浴は午後行うことになっているが気分や希望によっては午前の入浴対応もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルに合わせて程よい疲労感を作れるように日中はアクティビティを行っている。安心できるような関わり方にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と居宅療養管理指導の契約を結んでおり、担当の薬剤師と連携を取りながら服薬の支援を行っている。薬剤師からの情報などは職員全員で共有できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の訴えや希望を汲み取り、好きなこと、楽しみ事を行えるように支援している。出来ない部分は自尊心を傷つけないように共に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物支援を行っている利用者様もいるが現在、ほとんどの方が病院受診の外出のみとなっている。今後コロナも5類になったところを機に以前のように散歩やドライブなど外出機会を設けていきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則ご家族様の管理であるが希望があり自己管理が出来る利用者様であれば相談をし個人で所持して頂いている。管理ができない方でも希望時、必要時に使用出来るようにご家族様からお金を預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることが可能な方であれば要望に応じて対応している。電話で会話は可能だがかけることが困難な方は取りつなぐところまで支援している。毎年ご家族様に年賀状を出す支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるような装飾を利用者様と共に作る所から行っている。日々気持ちよく生活して頂くために清潔感にも努めている。天候、体調などに配慮した音、光、温度調整も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の自席は利用者様の相性などを考慮しながら決めている。気の合った利用者様同士でゲームが出来るようなテーブルの配置、テレビをくつろいで観れるようにソファの配置もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来る限り大切な物や馴染みの物を持参して頂き安全面に配慮しながら配置している。欲しいもの、必要な物が出てきた場合、ご家族様に相談しお持ち頂くかこちらでご用意している。利用者様の要望があれば居室のしつらえもおこなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の個々の生活スタイルを把握し、混乱や転倒などの事故が起きないような物の配置に配慮し安全に生活できるような動線を確保している。手すり、足元灯などの照明の設置などで安全面には工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームいずみの杜

作成日：令和 5年 5月 10日

市町村受理日：令和 5年 5月 18日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	介護記録の内容がケアプランに則っていない。その為、介護記録がケアプランの見直しに活かし切れていない。	介護記録を記載する際はケアプランに基づいた記載内容にする。今現在、利用者様が最も必要とされているサービス内容を職員間で話し合い、そのサービス内容に基づいた記録を心掛ける。介護記録とケアプランの連動を意識する。	介護サービスにはサービス内容の番号を入れてそのサービスを行ったことによる変化を記載するようにしていきたい。	6か月
2	6	勉強会と身体拘束・虐待防止適正化委員会の議事録が閲覧しづらい。	勉強会と身体拘束・虐待防止適正化委員会の内容を全ての職員が周知出来るようにする。それぞれ行った勉強会と身体拘束・虐待防止適正化委員会の議事録は別々に閲覧出来るようにファイリングしていく。	議事録は参加出来なかった職員も必ず目を通すようにする。勉強会と身体拘束・虐待防止適正化委員会の議事録はそれぞれ別にファイリングする。	6か月
3	4	前年度の運営推進会議は書面会議の為、現況報告のみとなっており話し合うという場面がない。	家族、町内会などから意見を頂きサービス向上に活かしたい。また学ぶ場としての環境も用意していきたい。	会議を開催する際は今現在、話し合うべきこと、学ぶべきことをテーマにして案内に載せ意見や質問などを交わせるようにする。もし書面会議になったとしても役立つ情報資料などを添付するなどの工夫をしていく。	6か月
4	35	災害時における講習、訓練が全ての職員に行き届いていない。	救命救急講習が受講されていない職員は順次、受講出来るように進めていきたい。火災だけではなく地震などの災害にも対応出来るように訓練を設けていきたい。	受講した事がない職員から順次、講習に参加出来るように設定。受講した事がある職員でも今一度、改めて受講したい職員は参加していく。災害別の訓練はもちろん、状況別ではどのように動いたら良いかなどの話し合いの場も設けていく。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。